

九州正教会だより

第65号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年2月1日発行

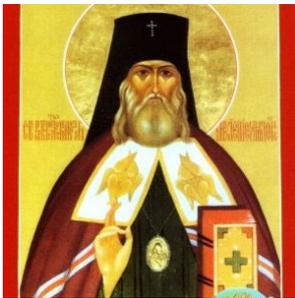
発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



亜使徒聖ニコライの苦勞

司祭グリゴリイ 水野 宏

1912年2月16日、東京のニコライ大主教（当時）が永眠しました。1970年、ニコライの列聖にともない、2月16日は「亜使徒日本の大主教聖ニコライ」の祭日となりました。

及川信神父監修の『日本正教史』によれば、聖ニコライがそれまで住んでいた函館を出て、東京に転居したのは1872年2月のことでした。彼は築地で借家住まいを始めましたが、食事は市中のソバ屋で済ませ、寝具は毛布だけという質素な生活でした。しかもその家は4月に火事で全焼してしまい、ニコライは全財産を失って借家を転々とするはめに陥りました。

日本外務省の関係者が火事見舞いで訪ねてきたとき、ニコライがいたあばら家には畳がなく、彼は押入れで寝起きしていたそうです。驚いた外務省側の斡旋で、新たな二階建ての借家に引っ越した後、ニコライはその家を伝教所とし、若者たちを集めて教えを伝えました。

同年9月、彼は以前から教会用地として着目していた神田駿河台の土地を、借地とはいえ入手できました。ここには後にニコライ堂が建ち、現在も日本正教会の本部となっています。

上京してから7か月で、東京の中心にあれだけの広大な土地の取得に成功し、教会を開設できたのは驚くべきことですが、そこに至るまで聖ニコライは大変な苦勞をしたのです。

福岡の九州北ハリストス正教会も、今月でオープンから1年となります。上京当時の聖ニコライ同様、二階家を改造して教会活動をしています。私は火事で焼け出されていませんし、押入れで寝起きもしていません。そもそも今の土地建物は教団からの資金援助のおかげで、教会名義で購入したものです。このように私たちは聖ニコライのような苦勞を全くせずに、今日まで来ることができましたので、大変恵まれていると感謝しています。

新教会発足から二年目を迎え、福岡への宗教法人の移転認証と将来の新聖堂建設とに向けて、ますます努力して参ります。今後ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。